

栃木PRに一役

県庁ビール お披露目

イベント 酔わせます

生産量日本一の県産二条大麦を100%使用し、県が商品開発を進めていた「県庁ビール」の試作品が完成、福田富一知事が15日の定例記者会見でお披露目した。販売はせず、今後のイベントなどで試飲用などとして活用して本県のPRにつな

げる。「プレミアムビール」として、イベントの目玉になりそう

だ。園だけで栽培されるイチゴ「とちひめ」を使って香りを高めたアルコール分5%のフルー

ツエール(400本)を作った。

製造者はファーマー・フォレストと栃木

マイクログルワリー(いずれも宇都宮市)。ラベルは、事前のコンペで優勝した宇都宮市在住のデザイナー坂本広太郎さんが担当した。

力を活用し、新たな商品が次々登場することを期待する」と述べた。知事は1月、下野新聞社主催の「しもつけ21フォーラム」の講演で、食を基軸に産業振興を図る県の「フードバレーとちぎ」を推進するためビールの試作品を作ると表明した。(森山知実)



完成した「県庁ビール」